



No.1

数地・背景

愛知県名古屋市千代田区

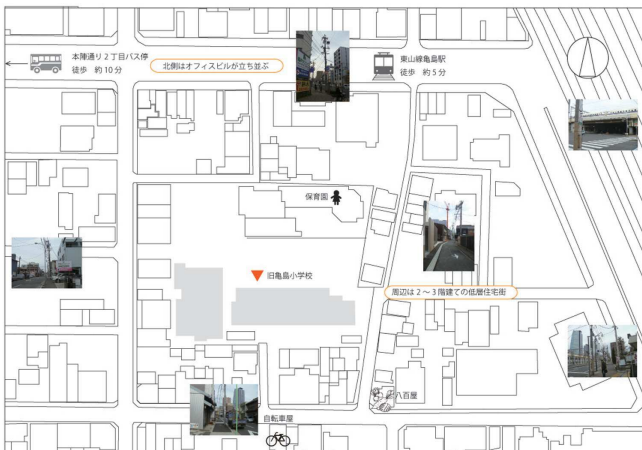


旧亀島小学校

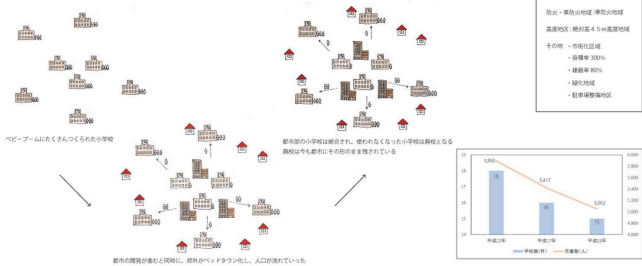


2002年に3校が統合し、「旧中村小学校」となった旧亀島校

周辺環境



1. 廃校の現状



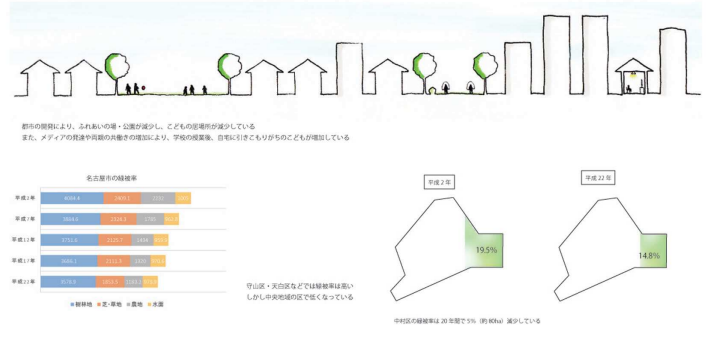
2. 単独世帯の増加



単独世帯の増加による影響



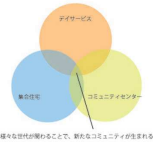
3. こどもの居場所の減少



No.2

コンセプト

都市のなごりは残しつつ
それは人が手を加えた形跡である
時代によって必要となり、建てられたもの
必要となり、壊されていくもの
廃校もそのひとつである
ただ壊すだけでは、変わりゆく「時」のなかで記憶は消えてしまう
記憶を残すためには、高い位置に設置していく・・・つまり高さが必要なのである
高齢化・孤立した社会に必要なものは何か
小学校をコンバージョンし福祉施設を持つ複合施設を提案する



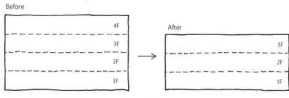
ダイアグラム

1. 校舎 → ディサービス・集合住宅

階高、内部のコンバージョンは建築師によるものであり、しかし、敷地関係の中で不足しているのは高層部の建築である
そのため、小学校をディサービスと集会所が一緒に高層住宅の複合施設にコンバージョンし、新たな可能性を提案する

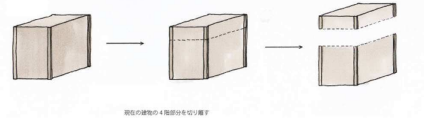
方法

1) 減築



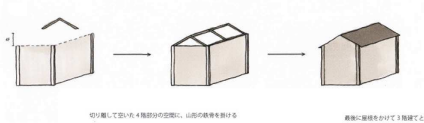
図説 4階建ての校舎を2階建てに減築する

Step 1



前後の建物の4階部分を切り離す

Step 2



切り離して空いた4階部分の空間に、山形の屋根をかける

最後に屋根をかけて3階建てとなる

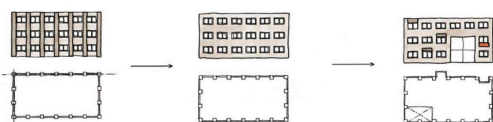
2) 柱の補強



柱径: 60mmの鋼管柱—既存の柱を補強する

3) 外観

小学校の校舎として使ってもらえれば、一軒家の「学校」というデザインを転記しはけられない



通常、小学校の外観は窓を並べているため柱の隙間のデザインが出てしまいます

今回のコンバージョンでは柱を補強するも、1層部を取り戻すため、その間に外観を柱の間に合わせるように施工する

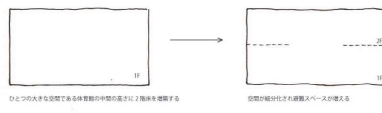
さらに2層部で橋を敷いて60コンクリートとし、センターを一つだけ突出、または階高が異なるなど、細い出っ張りで外観をデザインする

2. 体育館 → 仮設プロジェクト (コミュニティ施設)

旧国小学校の体育館は近隣の公園として指定されている
そのため、仮設を建てて体育館の仮設を移す必要がある
そこで、仮設プロジェクトも提案する
ある程度、この仮設施設がプロジェクトの「や」目標のありえプロジェクトなど、思い切った提案をすることでプロジェクトが動いている
さらに、体育館はもとより及びの形で、2層を確保することで複合施設がスムーズに実現することができる

方法

1) 増築

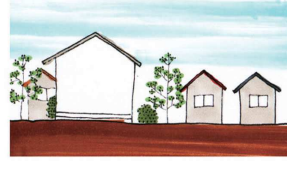


ひとつの大きな空間でも体育館の半分の広さに2階を確保する

空間が細分化され階高が変化する

2) 外観

体育館の外観は特に手を加えず、そのままの状態で、別の階高となる

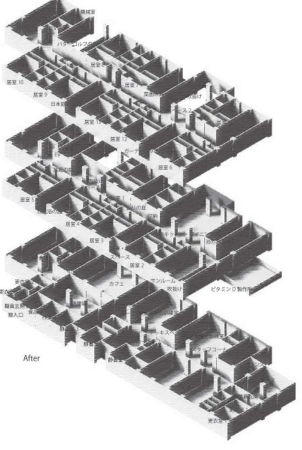
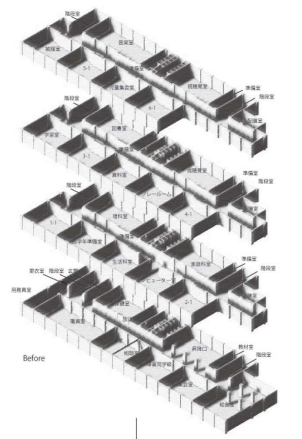


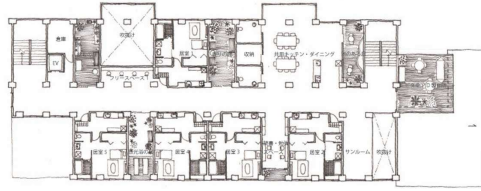
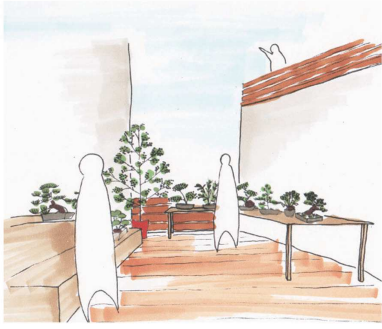
3. コミュニティセンター新設

都市開発
つまり建築をするときにその環境は変化する
建築はごとの環境を尊重しながら、ごとの環境をつくるべきである
そこで、何々建築したらごとの環境にどうなるのか・・・
コミュニティセンターとごとの環境の間にごとの環境を合わせることで、ごとの環境を尊重する



建物の変移





高齢者への配慮

高齢者は睡眠をとることに苦労する



睡眠には歩くなどの運動・日光を浴びることが大切である

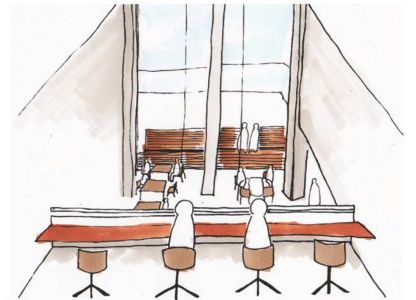
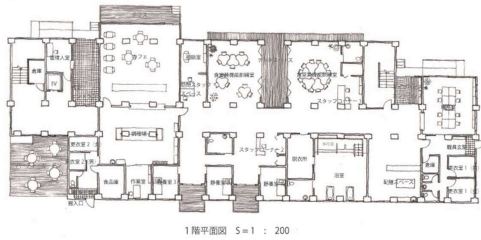
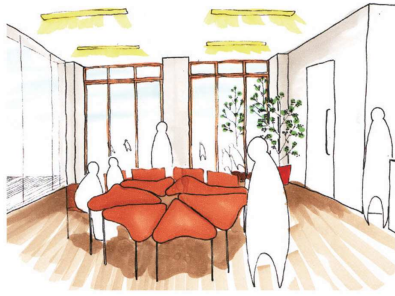


さらに24時間のリズムを整えることで



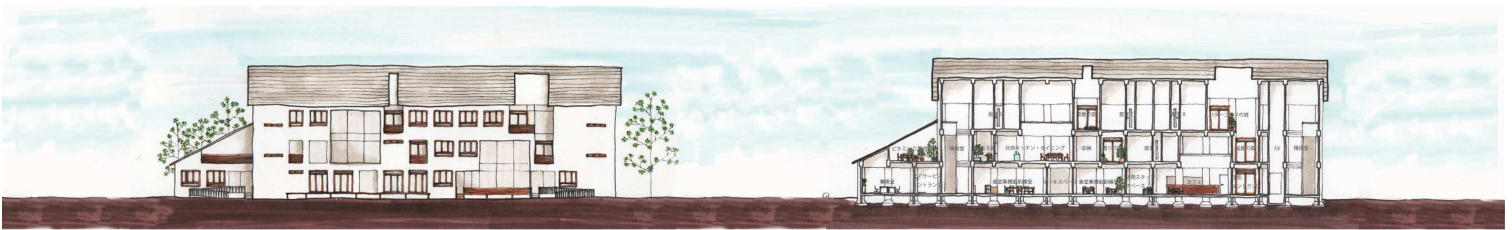
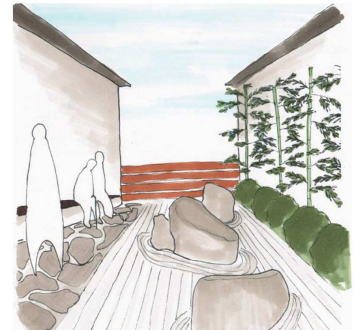
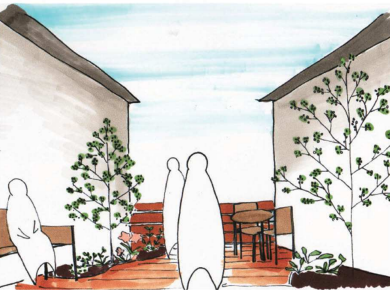
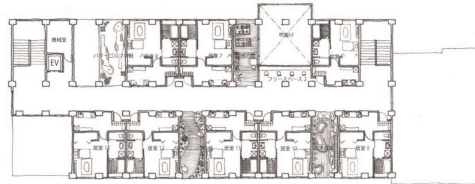
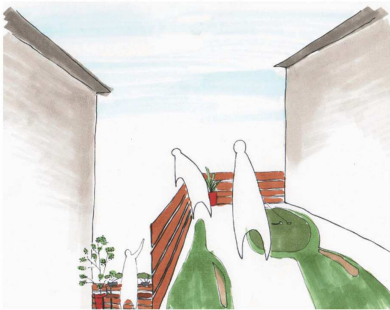
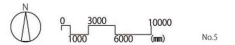
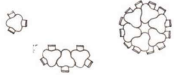
薬の使用を3割減らすことができる

そこで集入りの朝日を浴びることのできる
ビタミンD製作所としてテラスの設置を提案する



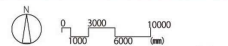
デイサービスでの工夫

高齢者もひとそれぞれで
個人でゆっくり過ごしたい人もいれば
みんなでわいわいと騒ぎたい人もいる
そこで、組み合わせ可能な机の利用を提案する



北側立面図 S=1 : 200

断面図 S=1 : 200



体育館 × 仮設プロジェクト

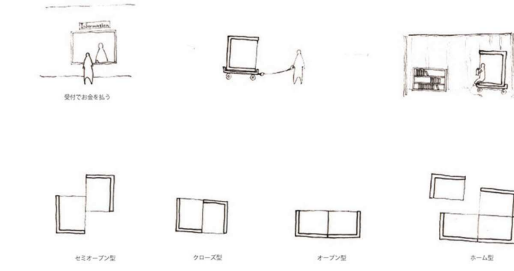
こどもの居る居るプロジェクト
全国の仮設施設



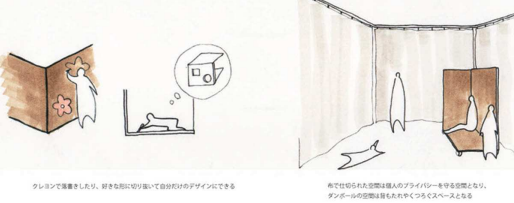
個人の空間構成



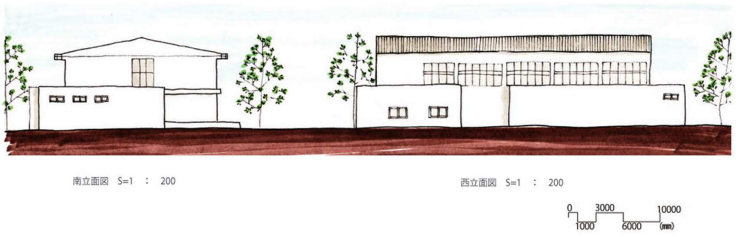
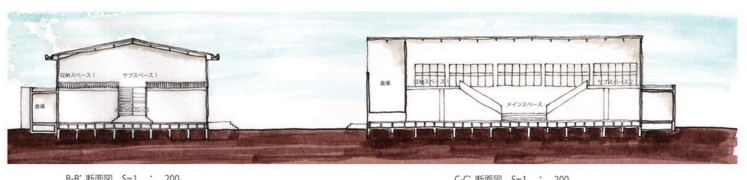
利用方法



ダンボールからできること 仮設物の活用

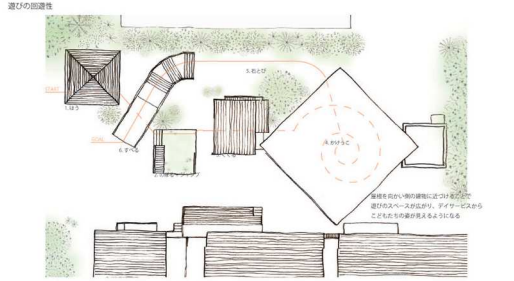
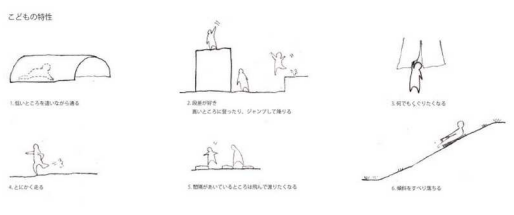
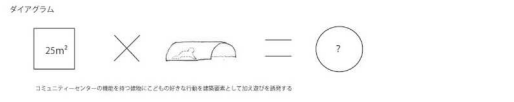


延床面積	
1階	636.64㎡
2階	93.74㎡
体育館総延床	724.14㎡



コミュニティセンター × こどもの遊び場

従来の建物空間により遊び場が減少していることともに、継続と持続された遊び場を提供する



遊び場と掛け合わせるコミュニティセンターの機能

受付	25㎡
算出スタジオ ×3	25㎡
受付	25㎡
スタジオ 1	25㎡
スタジオ 2	25㎡
スタジオ 3	25㎡
コミュニティセンター-総面積	25㎡

